

ねいとう 麻雀部

23年度新年号



練馬稲門会麻雀部「会報03号」 平成23年1月1日発行・編集委員会

昨年度優勝者・新年に”麻雀”を語る！

★第61回・第62回大会優勝

石岡 荘十 (S36 法)



★第63回大会優勝

小井土有治 (S36 政経)



★第64回大会優勝

南小柿 慧 (S34 理工)



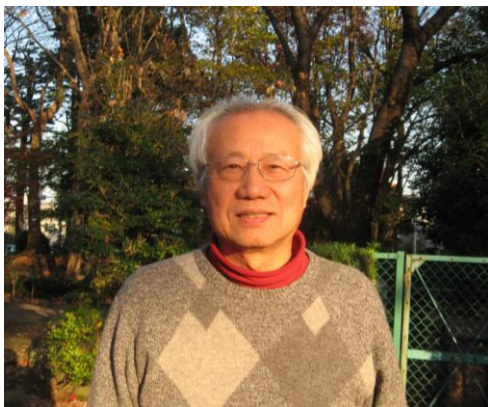
★第65回大会優勝

手塚 康博 (S31 政経)



★第66回大会優勝

小川 義裕 (S40 理工)



★第2回熱海大会優勝

富岡 晃 (S41 教)



★第61回大会・第62回大会優勝

【第61回：平成22年01月30日開催】

【第62回：平成22年03月27日開催】

麻雀部員 石岡 莊十
(S36 法)

「類は友を呼ぶ麻雀」

同じ性質や趣味を持った者が自然に集まる…。

いい年したジジババが
ニヶ月に一度、地元の
雀荘にメンツをそろえ
てギャーギャー大騒ぎ
する麻雀グループは、
まさに類が友を呼んだ
絵に描いたような集まり
である。とはいっても
勝負事となると話はち



と違う。「類」の経歴を見るといずれも海千山千、ときどき手綱を引き締めなければ暴走しかねない一騎当千の面々。が、歴代の緻密な部長の手綱捌きよろしく66回目を迎えた。メダタイ。

小生が出走したのはごく最近のことだが、この間優勝と準優勝があわせて5回。優勝の連荘もあった。10歳ではじめて牌を握ってからの65年の戦歴の果実である。それはともかく、この歳になって、こんなに多くの新しい同好の友人を得たことは望外の果実であった。いまやほぼ全員のお名前と顔が一致するようになった。

勝負事はヒトとナリを頭にする。元職とその打ち方を照らし合わせると、これまた興味津々である。勝負の後の宴ではさらに個性は増幅して盛り上がる。「♪集まり散じて人は代われど…」、「類」は久遠の友となるだろう。

諸兄の余生に乾杯である。



★第63回大会優勝

【第63回：平成22年05月29日開催】

麻雀部員 小井土 有治
(S36 政経)

「脳の劣化防止に最適」

古希の世代に入って数年が過ぎ、ボケが他人事でないと痛感する日々である。「毎日が日曜日」に近い人生終盤を心身ともに「生き生き状態」で過ごすには、小生のような怠け者には難しいことであるが、体も頭も日常的に使い、働かせることが大事のようである。



身体の退化防止策は、区民農園での無農薬の野菜づくりと石神井公園での散歩。もう一つは、常識外れの「早寝遅起き」である。

問題は、頭脳の劣化防止策。新聞や本を読んだり、原稿を書いたりしようと心がけてはいるがサボりがち。こうした中でいい刺激になるのは、優れた雀士ぞろいで気心も知れた練馬稲門会麻雀部会での手合わせである。

小生が初めて麻雀パイを握ったのは新聞記者三年目の昭和三十八年ごろ。おかげで、今も点数が数えられない劣等雀士で、ご迷惑をおかけしている。幸い練馬稲門会では寛大な皆様が多く、数年に一度、望外の優勝をさせてもらっている。手ごわい相手が多いので今後の優勝は宝くじ並みと考えているが、同門のよしみで頭脳活性化、情報入手の場としても活用させていただきたいと思っている。

★ 第64回大会優勝

【第64回:平成22年07月31日開催】

麻雀部員 南小柿 慧
(S34 理工)

「役満記」

麻雀を始めたのは、早大3年の夏でした。夏休みになると地方から来ている多くの同級生達が帰郷する為に東京に残るメンバーが少なくなって員数併せで呼びかけがあったのです。初日は手取り足取りで教えて貰いながらやりましたが、終わって家に帰って偶々家にあつた兄の麻雀の本を見つけ読んだ処、役満の頁で国士無双を見て、よし！明日は之をやってみようと思つても同じメンバーでやろうと言う事になっていたのだから、なんとイーソを積もって国士無双を上がりましたが、麻雀を始めて二日目にこの役満を上がった所為か、国士無双は其の後の50年間で100回以上は上がっています。只、13面待ちが残念ながら出来ていません。次に上がりが多かったのは四暗刻と大三元でしたが、地和を3回上がっています。私の場合、不思議なことに3回とも全部、万子で上がり3万×1回、6万×2回、私とやる時は皆さん！第一捨て牌の万子は気をつけて捨てて下さい。



丁度3年前に田中水力に奉職中、関西電力の役員をしていた同級生が上京して来たので会社のメンバーを入れて一戦しましたが、立ち上がりの2局目の親でサイコロを振って牌を山から持って来て並べた処、全く捨てる牌が無く綺麗なピンフの形で上がっていました。なんと！天和。麻雀を始めてから初の天和。これでツキを使い果たしたか其の後は1年で1~2回位しか役満が出来なくなっています。従って、役満ではなく自棄まんになっています。後は、未だやっていない、九連宝燈を上がりたいと願っておりますが、九十歳に連なるまでに出来るかどうか。

メンバーの皆さんを閉口させている駄洒落の麻雀記でした。

★ 第65回大会優勝

【第65回:平成22年09月25日開催】

麻雀部員 手塚 康博
(S31 政経)

「麻雀雑感」

麻雀の来歴に少し触れてみたい。

○入社間もない頃、「京大出の上司が、麻雀をやれば様々な人と出会えるから始めろ。」と云われたのが切っ掛けであつた。だがご当人、麻雀に負けると牌を投げつけた。○当時、正月になると、上司の宅に挨拶



に行くのが恒例であつた。正月二日に行くと早速麻雀となり、徹夜になった。奥様に一晩中茶菓、食事の接待をして戴いた。ご当人は癌で天寿を全う出来なかつた。今でも忸怩たる思いである。

○転勤の発令があつて間もなく、県会議員から送別麻雀大会の誘いがあつた。勝負を始めて時を経ずして、大枚が財布から無くなること。

議員諸侯のリッチなこと。

○地元対策上、警察関係の付き合いから麻雀会になった。勝負は体よく負けた。事後、交通違反ではお目こぼしを受けた。

○業者の接待麻雀には、一番気を使った。余り勝たぬように気を使うので疲れがくる。後の仕事の発注に影響するから。

さて、我々が麻雀部の充実ぶりは、歴代部長の力と会員の絆が与っているからと信じている。

和氣藹々の手捌き、そして懇親会での談論風発などをみると、風雪に耐え試練を乗り越えてきた会員の意気が感じられる。

永遠の麻雀部であることを願うとともに、富岡部長のリーダーシップに期待している。

以上

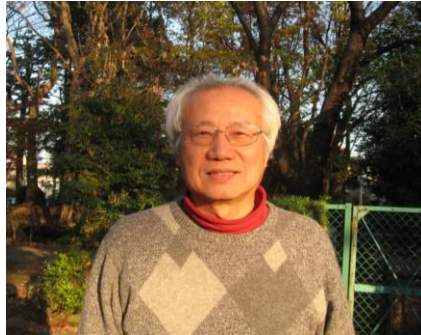
★ 第66回大会優勝

【平成22年11月27日開催】

麻雀部員 小川 義裕
(S40 理工)

新年おめでとうございます。

麻雀大会では平々凡々と静かに一年間を過ごして参りました所、
図らずも十一月大会で優勝の二文字に巡り会える事となりました。



実は私にとって麻雀とは、妻に対するやましが色濃く染みついております。麻雀絡みの数々の自分本位な行為に起因した、妻の未だに解けない麻雀拒否感情を、重く受け止め深く反省して今日に至っております。

二ヶ月に一回の麻雀大会は、私にとりまして妻公認の唯一の麻雀でありまして、この間待ちきれない思いをじっと我慢の私と致しましては、この優勝の喜びは一入であります。

今年は、この優勝の余勢に乘じ、妻とは弱気になる事なく、リーチ、ダマテン、ひっかけ等の麻雀技を駆使して勝負に挑み、時には妻の譲歩などを勝ち取ったりして、明るく楽しい共存共栄の日々を構築していこうと思っております。

皆様も今年一年お元気で過ごして下さい。
以上



★ 第2回熱海大会優勝

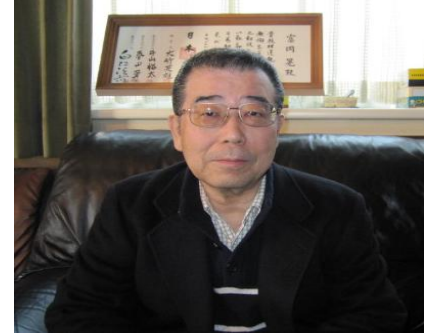
【平成22年04月16日開催】

麻雀部長 富岡 晃
(S41 教)

小生は、「勝負事」が好きである。

現在は、麻雀、囲碁、株…をやっている。それぞれに面白い。

麻雀は四人いなければ出来ない点で難ありだが、囲碁に比べると楽しい。それは、「伏せ牌」で勝負



負が展開するシステムにある。「機械化」(最先端の水準は、親の第一捨て牌からゲームが始まる…)が進んだ今、雀士の勝負感と才能よりも、偶然性と運が支配する。手積み時代の積み込みなど思いもよらず、バカズキしたとて、うしろめたさも生じない。第66回大会の小生は、前半のハンチャン2回の合計が「マイナス49」、後半のそれが「プラス120」…正にこれだから、面白い。

ダカラトイッテ、囲碁をけなしてるわけではない。囲碁は、「オープン」で、単純明快なシステム、即ち「19×19」の盤上に、黒石と白石を交互に並べることで勝負が展開する。が、「読みの世界」がある。プロは、一目で●●手を読むとされる世界である。

株は、「売り上がり、買い下がり」の世界に、泣き笑いをみる。我が家では、「2番底」はいつあるか？「ファニー・メイ(米住宅金融機関)」はどうなった？と話題は尽きない！ …。それぞれに面白い。…。

皆さん、本年もよろしくお願い申し上げます。

★ 本年の行事(予定)

①「平成23年01月29日(土)」	第67回大会	⑤「平成23年07月30日(土)」	第70回大会
②「平成23年03月26日(土)」	第68回大会	⑥「平成23年08月 ●日(日)」	第2回早慶大会
③「平成23年04月16日(土)」	第3回熱海大会	⑦「平成23年09月24日(土)」	第71回大会
④「平成23年05月28日(土)」	第69回大会	⑧「平成23年11月26日(土)」	第72回大会